令和２（2020）年度

地域学校協働活動推進員養成研修④ 実施報告

実施日：令和２（2020）年９月９日（水）

地域学校協働活動推進員養成研修（第４回）は、様々な話合いの場で必要となる「ファシリテーション」について理解を深めました。

講話・演習「ファシリテーションの技術」

宇都宮大学　地域デザイン科学部
准教授　石井　大一朗 氏

石井氏は、宇都宮大学において、地域創生推進機構地域デザインセンターの副センター長を務められ、「まちづくり論」や「NPO 論」、「地域プロジェクト演習」などの授業を担当されています。また、栃木県教育委員会ふれあい学習委員会委員長や県立日光明峰高等学校学校運営協議会委員長等も務められています。

本研修では、第２回に続いて御登壇いただきました。今回は１日を通しての講話・演習でしたが、自らの御経験も交えながら、分かりやすく進めていただきました。

午前は、安心できる対話の場づくりやバリアフリーデザイン思想など、ファシリテーションについて様々な切り口でお話いただきました。「上手なファシリテーター」とはどのような人なのかについて考えるワークでは、ファシリテーターとして必要なことに気づくことができたようです。まとめとして、ファシリテーションの知識を身につけることはもちろん大切であるが、その知識を活用し、自分の関わる話合いの場を変えていくことこそが重要であると受講者に話されました。

午後は、ワーク「こんなときどうする Q&A」を通して実際の場面を想定して考えることで、ファシリテーションの機能や役割、コミュニケーション術を学びました。その後、これまでに学んだファシリテーションのスキルを生かすことをポイントとし、前回に受講者が取り組んだコーディネーターの悩みに関するワークの内容を題材にして、その解決についての話合いを行いました。受講者にとっては身近なテーマであり、学んだことも確認できる効果的な学びとなったようです。

＊＊

ポリスチレン板を挟んでの意見交換

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、受講者同士の距離を確保して、接触や密な状況等を避けながら、講話・演習を実施しています。今回の研修から、話す相手が見やすいポリスチレン板を使用することとなり、演習が行いやすくなりました。

効果的な学びを追求し、研修方法を工夫しながら運営していますが、受講者に御理解をいただきながら講座を実施しております。今後も状況に応じた研修を実施してまいりますので、引き続き御協力をお願いいたします。

＊＊

【受講者の感想から】

○ファシリテーターの役割を学ぶことができ、すぐにはできなくても話合いの方法を変える必要性を感じました。
○ファシリテーターとして場を導く役をするにも、参加者が主体となり、参加者自身が物事を決定することが重要であることが理解できました。
○参加する人が話し合いやすい環境づくりが必要であることを理解できました。
○ファシリテーションをするにあたり、用意周到に準備、実施することの大切さを教えられました。
○少数意見を文字に残すという講師の言葉に共感しました。

研修内容に関するお問い合わせは、栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206　　e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp